実習中に指導過程を自己評価するための指針
―基礎看護実習の振り返りにおける指導より―

坂井謙次（基礎看護学）

【キーワーズ】 実習指導，基礎看護実習，指導過程，自己評価，指導者の認識

本研究の目的は，実習中に指導過程を自己評価するために必要な自己評価指針を得ることである。実習の振り返りにおいて，実習中の指導の特徴が学生の表現から捉えられることを前提とし，基礎看護実習の振り返りにおいて，直接実習指導を担当した学生への指導過程およびそのときの指導者（自己）の認識を，研究対象とする。研究方法は，学生と指導者の双方が指導の必要性を判断した場面を，対象－認識－表現の過程的構造に沿って事実的に捉えられるように再構成する。そして，薄井の看護実践方法論と臨地実習指導一般に照らして，実習中の指導の特徴を取り出し，その特徴が明らかとなった過程における認識の特徴から，自己評価指針を導き出す。その結果，4事例5場面の指導場面から，事例ごとに【振り返りにおける指導者の認識の特徴】，【実習中の指導の特徴（自己評価）】が明らかになった。そこから【自己評価へと導いた認識の特徴（自己評価指針）】として，11項目の自己評価指針が導き出された。さらに，導き出された自己評価指針全体を，看護過程に則して類別することで，看護過程の3つの局面に整理され，以下のように学生の看護実践能力向上につながる実習中の指導の自己評価指針を抽出することができた。

≪実習中に指導過程を自己評価するための指針≫

Ⅰ．＜事実の情報化から問題の明確化まで＞

－１）指導者が患者の全体像を描いたときは，健康一般と病気一般に照らして，健康な状態から病に至る患者の生活過程の事実に着目しているかと自問しているか

－２）指導者が描いた患者の全体像が学生のものと異なっていると気づいたときは，患者の全体像を学生とともに辿り，学生が患者の生活過程に着目できるよう刺激しているか

－３）学生とともに患者に直接かかわりながら観察する機会をつくりだしたときは，学生にとっては初めての体験で，指導者とは感じ方が異なることを承知した上で，

（１）五感を通して共有したことを患者の身体内部の状態とつなげられるよう刺激しているか

（２）患者の身体内部の状態とつなげてから，そのような状態にある患者の感覚を学生が自己のからだにつくりだせるよう刺激しているか

－４）学生が看護の必要性を見出してきたときは，指導者が捉えた看護の原則に照らして，学生がどの部分に着目しているのかと自問し，学生の看護実践能力の修得情況に合わせて刺激しているか

Ⅱ．＜問題の明確化から計画を立案し実施するまで＞

－１）学生が患者の立場からかかわることができていないと判断したときは，患者が置かれている今の情況を事実をもとに描かせ，自己のかかわりを客観視させるような刺激をしているか

－２）学生のかかわりが看護となるようにと支援しているときは，学生が患者の看護の必要性のどの部分に着目してかかわろうとしているかを知ろうとしているか

Ⅲ．＜実施してからその評価まで＞

－１）学生が患者の位置からかかわれるようになったと判断したときは，患者の変化に学生が着目できるように刺激しているか

－２）学生のかかわりが良いかかわりに変化したと指導者が感じたときは，

（１）そのかかわりにおける患者の変化を看護に照らして意味づけているかと自問しているか

（２）学生の感情に働きかけるだけでなく，根拠を持ってかかわりの変化を実感できるよう刺激しているか

（３）学生にかかわりの変化を客観視させ，変化のきっかけを学生が自覚しているかどうかを確認しているか